

**ダイキン工業株式会社 2021年3月期第3四半期決算  
アナリスト・機関投資家向けテレフォンカンファレンス 質疑応答  
(2021年2月9日)**

**Q：第3四半期決算が好調であった要因は。通期計画を上方修正しているが、第4四半期の計画も見直しているのか。**

**A：**第3四半期が好調であった要因は、主に3つ。1つ目は販売数量増で、住宅用空調の販売がグローバルで想定以上に好調だったこと。2つ目は売価効果で、販売が好調な住宅用空調で売価を維持できたこと。3つ目は、通常の経費削減に加え、コロナを機に取り組んでいる収益構造改革に向けた抜本的な固定費削減の効果が出ていること。また、地域別に見ると、中国で、景気回復に伴い当社の売上高も7月以降は前年比プラスに転じていること、米国で4月に一時操業を停止していたグッドマン工場の製品供給が正常化したこと、日本で空気清浄機や換気商材を中心に需要が強く販売が好調だったことが挙げられる。  
通期計画は、第3四半期の実績を反映して上方修正した。今後も業務用空調を中心に需要が厳しい状況が続くと見込んでおり、第4四半期の見通しは大きくは変えていない。

**Q：住宅用空調の販売が巣ごもり需要などを背景にグローバルで好調であるが、今後反動減があると見ているか。**

**A：**コロナを機に換気や空気清浄のニーズが顕在化し、需要が押し上げられた部分もあるが、反動減が急に出ることはないとしている。コロナ収束後も空気質の向上を訴求して自ら需要を創造し続け、販売拡大につなげていきたい。また、業務用空調についても、見通しは厳しいが、換気需要は今後も必ず出てくるので、販売拡大につなげていく。

**Q：中国の空調市場の動向と、通期での見通しは。**

**A：**住宅用マルチエアコンは、不動産投資が堅調であるため、当社の販売も好調な伸びを継続している。一方、業務用空調は、ビル市場や小売市場が回復途上であり、当社の販売もまだ前年度の水準まで戻っていないが、インフラ投資が動き出していることもあり、回復傾向は強まりつつある。

**Q：米州について、収益性向上に向けた来期以降の見通しは。**

**A：**政府の経済対策もあり景気は底堅く、住宅市場も非常に堅調で、需要環境は良い見通し。グッドマンの製品供給力が回復したので、販売拡大に結び付けていくことが重要と考えている。販売店開発に向けて継続的に投資が必要であるため、二桁の営業利益を実現することは簡単ではないが、引き続き生産性向上と販売拡大に注力していく。

**Q：欧州の空気清浄機市場の成長性について。**

**A：**空気清浄機は、これまで日本がメインの市場だったが、コロナを機に他地域でもニーズが出てきている。欧州では、今期5万台の販売を計画しているが、来期はさらなる需要喚起、販売拡大をめざしたい。

**Q：第4四半期の固定費の考え方は。**

**A：**第3四半期までと比べて増加する計画。コロナがある程度収束していく前提で、来期のV字回復に向けて積極的に先行投資を行う。換気・空気清浄関連の商品開発や販促、デジタル化の推進に向けた投資などに注力する。

**Q：銅を中心に原材料市況が上昇しているが、今期と来期への影響は。また、輸送コストの上昇による影響は。**

**A：**銅市況はこのまま高止まりすると見ており、コストダウンで吸収していく必要がある。今期の計画にも織り込んでいる。輸送コストの上昇についてもマイナス要因として認識しているが、今期への影響は軽微。来期のコストアップに対しては、生産面で部品の輸送量を減らすなど、対策を検討している。

**Q：化学事業について。半導体市場や自動車市場などで需要が回復傾向にあるなか、販売が伸び悩んでいる要因は。**

**A：**タブレット端末向けなどの販売は好調であり、半導体向けも回復してきている。特に中国では、半導体や自動車、インフラ関連、情報通信などすべての分野で回復傾向にある。一方、自動車市場向けのゴムで流通在庫が高水準となっており、受注が減少している。足元で解消してきているため、来期以降は回復してくると見ている。

以上